

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203568		
法人名	医療法人社団五聖会		
事業所名	グループホーム向日葵(1階ユニット)		
所在地	岡山県倉敷市児島下の町10丁目374番地		
自己評価作成日	令和2年8月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jijvsvocd=3370203568-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和2年8月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者さま・ご家族との蜜なコミュニケーションを心がけ、信頼関係を作ることで訪れやすい、話しやすい雰囲気作りをしています。医療・介護・リハビリテーションとの連携により状態に応じた適切なケアに取り組んでいます。個々の得意分野を生かし、日々の生活の中に活躍できる場面を設けています。とにかく元気で笑顔の支援に取り組み、ユニット内の雰囲気を明るいものにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

いきなり訪問して、「施設が行き届いているなあ」と思ったのは、スタッフの殆どが永年勤続者であることが証であり、何より優れた点である。実務でも、スタッフ同士で良いこともそうでない事も分かち合い、語り合いながらチームワークを強めてきて、利用者目線でサービスを提供しているところからも伺われる。ゆったりと時間が流れるように施設内が一体化していて、職員と利用者がほのぼのと家族の輪となり、尚且つ、職員の前向きさが、当たり前のようにすべての職員に伝わっている。そして、利用者及び、その家族をも自然と巻き込んで、病院や特養、有料、デイサービスまで波動し、児島の地に携わる一つの村となり、コロナに対する三密を解消できる大家族となっている。その礎が、ユニットの会議で言いたいことも何でも言い合え、その場が終われば笑顔で仕事に関わり、少しでも利用者のためにと思う職員の心に刻み込まれ、新しい環境を作り上げようとしているのは確かだ。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆとりを持った生活の支援を心がけている。無理強いすることなく本人のペースに合わせた生活を提供している。	1階と2階の階段出入りに掲示。日々の職員との語り合いの場で柔らかく理解して頂いている。新人には、見学の時から、『利用者の好きな様に生活して頂く場所なんだ』と語りながら、理念を紐解いている。新人研修マニュアルを活用して個性を発揮しやすいように、理念の浸透を図っている。	素晴らしい理念なので、もっと大きく掲示をして、職員が少しずつ理念に近づけるように、身近である方針から掲げて、日々チャレンジしてはいかかでしょうか？
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での買い物・近所への散歩・ゴミ出しに出かける際に積極的に挨拶などしている。ここから顔なじみが増え簡単な世間話などができるようになった。	地域の買い物なども三蜜に配慮しながら、散歩やゴミ出しを毎日行い、少しでも気晴らしができるように、あえてちょっと遠回りしたりして帰ることで、以前の顔なじみの関係を絶やさぬように、この期でもずっと続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月に一度の地域の新聞に活動内容などの情報を発信している。また、3か月に一度発行される母体の病院の広報誌にも情報発信している。また、近所の中学校や高校などの職場体験なども受け入れており認知症の理解にもつながる学習の場として提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご近所のグループホーム・特養や小規模多機能型居宅介護など、サービスの種別を超えた運営推進会議が行っている。倉敷市にも案内を出し毎回ではないがご参加いただけている。	コロナ禍で仕方なく中止している状態であるが、以前の集まりがすぐできるように民生委員・市職員・包括・利用者代表・他事業所の方にも、連絡のできる体制は整っている。早く落ち着いて再開できることを期待しながら、いつでも用意は万端である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	密な連絡の取り合いは行っていない。介護保険の更新や変更の申請時に生活状況を伝えている。解らないことがあれば都度、市町村にお尋ねをしている	主たる窓口は事務長が常時とついで、メールで適宜、情報提供を受けている。見落としがないようにチェックしながら、分からないことは、電話で質問し確認している。担当者とは、関係性が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症の周辺症状による徘徊があり利用者の安全の確保のため玄関は施錠させていただいているが、緊急やむを得ない場合を除き身体拘束は行っていない。グループホーム全体で身体拘束廃止検討会を行っている	身体拘束はしていない。不穏な症状が強い方には、チームワークで集中してケアを行い、気持ちのリラックスを提供している。毎年、身体拘束廃止委員会を開催し、快適な環境の提供に注力しているので、医師と良く意見を交わしながら服薬を促せている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に数回の勉強会を行い利用者に対する言葉かけにも気を配っている。また、職員個々の意識レベルの向上にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	両者について学ぶ機会を持っていない今後、勉強会の機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所としての取り組みや目指す方向性を説明し、納得していただけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問しやすく、話しやすい明るいユニット作りを中心に掛けている。月に一度ご家族へお手紙を送り近況を知ることができるようにしている。特に今年のコロナウirusの影響により面会に制限がある時は非常に喜ばれた。	手紙のほかに電話にて状況報告や連絡を行い、迅速にコミュニケーションをとっている。家族の面会時等には言葉をかけ、意見を聞くようにしている。ちょっとした身体状況の変化に対応したケアの要望も聞き取って、内容に合わせて、即日、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度会議を開き意見・改善内容等話し合い、業務に反映させている。また、会議で発言しやすい雰囲気作りをしている。	職員の9割以上が7～10年勤続。時には、職員間の見解の相違や考え方の違いなどがあっても、個別に、また、皆で語り合って解決してきた。事務長と職員は、皆、普段から気軽に話し合え、よりストレスフリーな職場環境を作れるよう努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境作りを最重視している。個々の意見の反映・スキルアップへの助言など現場に生かせる環境作りに留意している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や勉強会に参加しやすいようにしている。また、苦手分野に対する個別指導やアドバイスをしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの種別を問わず近隣の施設と交流している。令和2年初旬からはコロナ渦中にて交流は一時中断しているが。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意見・要望を取り入れながら関係を構築できるよう努めている。「生活の場が変わることに対する本人への負担」を念頭に置き柔軟な対応が出来るよう工夫している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や意見がケアに反映できるよう努めている。面会時にしっかり会話し意見や要望の引き出しに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前に本人・家族の要望をケアプランに反映しているが、状況は随時変化しており本人の状態に合わせて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の得意分野を生かし役割分担を決め皆で生活していることを大切にしている。中には、いつの間にかグループが形成されており、微笑ましく見守っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時の近況報告など、会話の時間を設けている。親しみを持ってもらえることで事業所からのお願いなどにも積極的に協力して下さっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人やご近所さんが出入りしやすい雰囲気作りに努めている。	コロナの影響から、考え方を換え、今できる最大限である利用者の日課になっているゴミ出しや近隣の散歩ルートを馴染みの場として、また、馴染みの人を近所の方や病院のスタッフとして、気軽に声を掛け合う関係に変化させ、馴染んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団レクリエーションの時間や食事の時間など、職員が間に入りコミュニケーションが図れるよう工夫している。他者とのかかわりを煩わしいと感じる利用者に対しては職員との会話の時間を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの契約が終了後に本人からハガキや手紙が届くこともある。本人を通じてご家族から電話連絡があることもあった。本人からの手紙やはがきには必ずお返事を出している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り本人の意思を尊重している。意思決定や意思表示が困難な場合はその表情などから汲み取りケアしている。	日常会話や表情やしぐさを見たり感じ取りながら、機微なシグナルを察知し、利用者の思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族に確認したり生活歴に基づき、本人本位にしている。関係構築の過程で、家族の知らない本人の素顔もうかがい知れるので、家族に伝えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴の把握を重要視している。職員はこれを把握しケアに役立てている。本人との会話のなかで知り得た情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体機能・認知機能の向上や低下など随時適切に捉えられていると思う。変化があれば職員間で情報共有し把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状況や希望を話し合い関係者と連携を持ち現状に合わせた計画を作成している。	入居前のアセスメントと入居後1カ月目にモニタリング。その後は、3～6か月程度で、利用者の状態に見合ったモニタリング頻度を定めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有を重視し、記録に残すことで計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に合わせた柔軟な支援を行っている。サービスの多機能化には取り組めておらず、グループホームとして何が出来るのか？を考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア登録をしており、条件が合えばお手伝いをお願いすることもある。また、関連病院での催事で地域で活動しているボランティアの催しに参加させていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族から納得が得られたかかりつけ医との関係は良好。密な連携が取れており、随時適切な医療を受けることが出来ている。	かかりつけは、家族の希望により、全員、母体法人がかかりつけ医となる。訪問歯科は隔週。他科へは家族が受診を介助する。医師やセラピストとは、関係性が深く出来おり、関連(かつたつ)に意見交換も出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との連携は密である。状態に変化がみられれば、すぐに相談できる環境にあり、利用者・家族の安心につながっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院から退院までの間、本人の様子が確認できる環境にある。また、医師や看護師と情報共有ができており、良好な関係が構築されている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス開始時に看取りや終末期介護についての家族の意向を伺い、説明している。必要時には家族を交え医師との話し合いを行っている。	身体的ケアは、二人介助などで可能な限り対応できるが、医学的管理が重度となる際には、特養や入院の相談を主に医師として、施設を移ったり、入院となる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が対応できるよう、マニュアルを作成している。不安な職員には随時アドバイスや個別での指導を行っている。また、職員会議の中でヒヤリハット・事故報告を行い事例検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制は築けていないが、隣接の関連事業所である児島聖康病院との協力体制を築いている。	年2回、事業所単位で主に行い、法人全体で行う訓練の時には合同で行う。火災訓練を昼を想定して実施。防災研修を年に1回開催して、業者を招いて、防災機器やグッズの説明を受けている。法人と事業所の両方で飲料水を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心に配慮した言葉かけを心掛けている。プライバシーに配慮したケアを行っている。	呼称は、苗字に「さん」付け。また、本人の希望や家族の了解を得て、本人が好む呼び方を使う。排泄で失敗された時には、周囲に悟られない様に「ちょっと来て」「だれか呼びよるわ～」と言葉をかける。入浴の際は、声をかける位置や目線・音量等に気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや意思を表出しやすいようなかかわりを大切にしている。普段からの会話がヒントとなることが多い。会話の大切さを感じる。生活全般に於いて無理強いはない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人がどのように一日を過ごしたいのかをだいたいは開くしている。それぞれに決まったパターンがあり、尊重している。時には職員都合になってしまう場合もあるが、その時は本人が納得いくような説明を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選んだ衣服を着用し、一部にはお化粧される方もいらっしゃる。化粧品など欠品があれば買い物代行している。散髪は2か月に一度。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には食べたいものを事前に伺い、希望に沿った食事を提供している。食事作りは一緒には行っていないが、野菜の下処理やテーブル拭き・お盆拭きなど食事に関する家事手伝いを行っている。	コロナ前は、日ごろから近隣のスーパーで食材と一緒に購入し、3食共に職員が手作りしていた。今は、買い出しは職員が行い、利用者の好みや季節の物をメニューに彩り加えている。利用者も準備や片付け等に加わり、職員と一緒に和気藹々と食卓を囲んでいる。	食事の献立も増やすためにも、リスク管理も併せて人員増加を図り、まずは、食事のまかないの方から採用を始めては、如何でしょうか？
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じた対応をしている。時には栄養士に助言をもらうこともある。食事形態についても医師や栄養士と相談できる環境にある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを徹底し、口腔内の状態を把握している。必要時には訪問歯科を活用し歯間ケアや歯磨き指導・義歯調整などしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立支援に向け、本人の行きたい時に自由にトイレに行けるようにしている。誘導や介助が必要な方には意思を確認している。排泄機能低下によりオムツの使用量は全般的に上がっている。	重度の介護の方でも、トイレ誘導を積極的に行っている。清潔の保持に注力しているため、家族に理解を得て、オムツやバットを頻繁に交換している。また、利用者毎の排泄機能を把握する事で、紙パンツから布パンツに、また、紙パンツからリハビリパンツに改善の事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握し、運動・水分摂取などできるだけ促し自然排便を目指しているが・・・緩下剤や下剤によるコントロールがほとんどとなっている。必要時には受診し医師の指示によりケアしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	外来リハビリ等の都合もあり本人が入浴したいタイミングでの入浴が出来ていない。可能な限り時間帯調整などで対応をしている。	週2～3回の提供。出来るだけ入浴したい時間に入ってもらう様に努力している。浴室までの経路に、いろいろな飾りつけをして、楽しみながら誘導している。時には、一緒に歌を歌いながら浴室まで促すことで喜んでもらっている。言葉かけや職員を変える等して導いている。ゆず湯の提供は毎年恒例。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の意思を尊重している。出来るだけ日中は活動し夜間にぐっすり眠る習慣ができています。昼夜を問わず休息したい方は自由に休むことができるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が個々の服薬内容を把握できるよう工夫している。状態が改善されれば医師に報告し終了する。新たに処方された薬剤については経過観察を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持って頂き、生活のなかに活躍できる場面を作っている。職員や他者からの賞賛を得ることで存在意義が保たれている。レクや簡単な作業などみなと協力し気分転換を図っている。今年はコロナ禍により大好きな外出が出来ていない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日・TVでおいしい物が出た日には突然ドライブを兼ねた買い物等に出掛けることもある。外出をとて楽しみにされていた。コロナ感染が落ち着くまではしばらく外出は自粛となっている。	三蜜に配慮しながら、日常の外出は続けている。散歩やゴミ出し、ちょっと遠回りして帰ってくる事、敷地内の移動での職員とのあいさつなど、コロナ禍でも続けるよう努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、金銭の自己管理ができる方はいない。外出時に個人のお小遣いから支払いをして頂くのみとなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、家族へ電話を掛け、または電話の取次ぎは随時行っている。季節により葉書を出すこともあります		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るいスペース作りを心掛けている。季節の壁画を共同で作成し玄関・共用スペースに展示している。イベントの写真や観葉植物なども飾っている。	共用空間は広く、温度・光・湿度等が適切に管理されており無臭には驚かされた。空気の淀みも感じない。壁には利用者の作った季節の折り紙や塗り絵等が飾られて落ち着いた空間となっているので、職員の目指すゆったりとした空間が、まさにここに形付けられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時間以外は個々の好きな場所で過ごされている。共用スペースのなかでも居場所が作られている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と馴染みのあるものを配置し、使いやすいようにレイアウトされている。	どの部屋もスッキリ整頓されていて、木調の床は落ち着きを醸しており無臭は言うまでもない。各室、ベッドと洗面台が設置され、椅子やテレビ、手作りカレンダー等が飾られ、その人らしい部屋となっている。コロナの影響で、清潔をモットーとして安全性を追求している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全第一を心掛け、レクで使用する物品や道具など自由に使用できるよう利用者が工夫している部分がある。生活の場としての利用者なりの工夫と捉え、危険物は置かないように職員が管理している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203568		
法人名	医療法人社団五聖会		
事業所名	グループホーム向日葵2階		
所在地	岡山県倉敷市児島下の町10丁目374番地		
自己評価作成日	令和2年8月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jijvsvocd=3370203568-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和2年8月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・同法人の病院連携があり介護度の高い方も支援できる。 ・ご家族との連携・コミュニケーション ・可能な限りの自立生活の支援
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>いきなり訪問して、「施設が行き届いているなあ」と思ったのは、スタッフの殆どが永年勤続者であることが証であり、何より優れた点である。実務でも、スタッフ同士で良いこともそうでない事も分かち合い、語り合いながらチームワークを強めてきて、利用者目線でサービスを提供しているところからも伺われる。ゆったりと時が流れるように施設内が一体化していて、職員と利用者がほのぼのと家族の輪となり、尚且つ、職員の前向きさが、当たり前のようにすべての職員に伝わっている。そして、利用者及び、その家族をも自然と巻き込んで、病院や特養、有料、デイサービスまで波動し、児島の地に携わる一つの村となり、コロナに対する三密を解消できる大家族となっている。その礎が、ユニットの会議で言いたいことも何でも言い合え、その場が終われば笑顔で仕事に関わり、少しでも利用者のためにと思う職員の心に刻み込まれ、新しい環境を作り上げようとしているのは確かだ。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めに会議で理念を再確認し共有して実践を心掛けています。	1階と2階の階段出入り口に掲示。日々の職員との語り合いの場で柔らかく理解して頂いている。新人には、見学の時から、『利用者の好きな様に生活して頂く場所なんだ』と語りながら、理念を紐解いている。新人研修マニュアルを活用して個性を発揮しやすいように、理念の浸透を図っている。	素晴らしい理念なので、もっと大きく掲示をして、職員が少しずつ理念に近づけるように、身近である方針から掲げて、日々チャレンジしてはいかがでしょうか？
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	特に地域のお祭りが有名なので積極的に参加・見学しています。	地域の買い物なども三蜜に配慮しながら、散歩やゴミ出しを毎日行い、少しでも気晴らしができるように、あえてちょっと遠回りしたりして帰ることで、以前の顔なじみの関係を絶やさぬように、この期でもずっと続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月一回地域の新聞に情報を掲載しています ・病院の冊子にも情報を掲載しています。 ・学生の職場体験の受け入れをしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議で近隣の施設と民生委員の方と家族の方で交流を持ち情報交換してサービス向上に活かしています。	コロナ禍で仕方なく中止している状態であるが、以前の集まりがすぐできるように民生委員・市職員・包括・利用者代表・他事業所の方にも、連絡のできる体制は整っている。早く落ち着いて再開できることを期待しながら、いつでも用意は万端である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	保険の更新や変更の申請時に生活情報交換しています。認定更新の際は具体的に様子を伝えています。	主たる窓口は事務長が常時とって、メールで適宜、情報提供を受けている。見落としがないようにチェックしながら、分からないことは、電話で質問確認している。担当者とは、関係性が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関に施錠はありますが身体拘束をしないことを基本的にケアを行っています。身体拘束廃止検討会議、身体拘束の勉強会も行っていきます。	身体拘束はしていない。不穏な症状が強い方には、チームワークで集中してケアを行い、気持ちのリラックスを提供している。毎年、身体拘束廃止委員会を開催し、快適な環境の提供に注力しているので、医師と良く意見を交わしながら服薬を促せている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の年間スケジュールの中に高齢者虐待等を2回設けており個人意識レベルの向上に務めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の勉強会を開き職員全員の意識を高め関係者と話し合いそれらを活用できるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所の取り組みや考え方を説明し理解納得を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月一度のお手紙や面会時に入居者様の様子を伝え家族の意見や要望を聞いて運営に反映させています。	手紙のほかに電話にて状況報告や連絡を行い、迅速にコミュニケーションをとっている。家族の面会時等には言葉をかけ、意見を聞くようにしている。ちょっとした身体状況の変化に対応したケアの要望も聞き取って、内容に合わせて、即日、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度の職員会議を開き情報を共有し職員の意見や提案を聞き取り組んでいます。	職員の9割以上が7～10年勤続。時には、職員間の見解の相違や考え方の違いなどがあっても、個別に、また、皆で語り合って解決してきた。事務長と職員は、皆、普段から気軽に話し合え、よりストレスフリーな職場環境を作れるよう努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境作りに重視し職員の意見や要望を大切に改善や整備に務めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会や勉強会に積極的に参加できるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議で情報交換や交流を図り取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族・ご本人様の意見希望を取り入れて環境が変わることへの不安を和らげるようサービス提供ができるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の望まれるケアを把握し職員に相談しやすい関係作りに努めています。面会時にも職員から聞くように心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の変化にすぐに対応できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	無理強いせずご本人様の過ごしやすい環境、生活ペースを心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月一度の状況報告をお手紙を書いてコミュニケーションをとっています。面会時には落ち着いて気兼ねなく話せるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の方にもご協力いただき外出・外泊・面会時の支援をしています。	コロナの影響から、考え方を換え、今できる最大限である利用者の日課になっているゴミ出しや近隣の散歩ルートを馴染みの場として、また、馴染みの人を近所の方や病院のスタッフとして、気軽に声を掛け合う関係に変化させ、馴染んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握しトラブルがないよう潤滑に関わり合えるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も同病院入院の場合は面会に行かせていただき家族様とお話しさせていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で言葉や表情で思いをくみ取ると同時に希望や意向も傾聴しケアプランやケアに反応させています。	日常会話や表情やしぐさを見たり感じ取りながら、機微なシグナルを察知し、利用者の思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族に確認したり生活歴に基づき、本人本位にしている。関係構築の過程で、家族の知らない本人の素顔もうかがい知れるので、家族に伝えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時ご家族様や事業所より今までの暮らしやサービスを聞き情報把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族様や事業所よりたくさんの情報をとり日々バイタルチェック等で健康管理を行い各部署のカンファレンスで情報を共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスでのスタッフでモニタリングを行いケアプランに反映させています。ご家族様の意見もカンファレンスで共有しています。	入居前のアセスメントと入居後1カ月目にモニタリング。その後は、3～6か月程度で、利用者の状態に見合ったモニタリング頻度を定めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、個人記録に日々の様子を入力・記録しており情報の共有し実践や介護計画に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様のニーズが変化した場合は柔軟に対応できるようにスタッフの意識の統一を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りや地域のボランティアの来訪で交流を深める機会をつくり楽しむことができるとともに支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接の病院が連携しており週2回お定期受診を行い24時間365日対応しています。	かかりつけは、家族の希望により、全員、母体法人がかかりつけ医となる。訪問歯科は隔週。他科へは家族が受診を介助する。医師やセラピストとは、関係性が深く出来おり、関連(かつたつ)に意見交換も出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人での医療法人連携を結んでおり密に連絡でき健康管理に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には定期的に病院に訪問し主治医・看護師・情報交換や相談に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについて説明してし重度化した際の意向も確認しています。重度化・終末期になった場合は家族様と話し合いの場を設けスタッフや医師とで話し合いをしながら取り組んでいます。	身体的ケアは、二人介助などで可能な限り対応できるが、医学的管理が重度となる際には、特養や入院の相談を主に医師として、施設を移ったり、入院となる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ全員が対応できるように勉強会やマニュアル作成し周知に努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路の確認、環境整備を行い防災対策しています。倉敷市棒化協会主催の消化技術訓練大会の参加しています。	年2回、事業所単位で主に行い、法人全体で行う訓練の時には合同で行う。火災訓練を昼を想定して実施。防災研修を年に1回開催して、業者を招いて、防災機器やグッズの説明を受けている。法人と事業所の両方で飲料水を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員のさりげない見守りで入居者様のプライドやプライバシーに配慮するなど心掛けています。耳が遠い方が多いので声かけには注意しています。	呼称は、苗字に「さん」付け。また、本人の希望や家族の了解を得て、本人が好む呼び方を使う。排泄で失敗された時には、周囲に悟られない様に「ちょっと来て」「だれか呼びようわ～」と言葉をかける。入浴の際は、声をかける位置や目線・音量等に気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の希望があればその都度対応しています。出来る限り希望に添えるよう努めています。		
38		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースや体調生活リズムに合わせてその日の過ごし方を支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝整容時に衣類をご本人様に選んで頂き季節等の考慮はさりげなく声掛けさせていただきます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みを聞きながら家庭料理に近い手作りの料理を提供させていただいています。お盆ふきなどできることは手伝っていただいています。行事では皆で選んだ仕出しや外食を提供しています。	コロナ前は、日ごろから近隣のスーパーで食材と一緒に購入し、3食共に職員が手作りしていた。今は、買い出しは職員が行い、利用者の好みや季節の物をメニューに彩り加えている。利用者も準備や片付け等に加わり、職員と一緒に和気藹々と食卓を囲んでいる。	食事の献立も増やすためにも、リスク管理も併せて人員増加を図り、まずは、食事のまかないの方から採用を始めては、如何でしょうか？
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の状況に合わせて食事形態に対応させていただいています。水分補給量・体重・血液検査などの把握もきちんとしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っています。施行の際には見守り・声掛け・確認等個別に対応しています。歯科受診が必要な方は連携している歯科訪問受診を依頼しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくオムツにしないように尿意がない方もトイレの排泄誘導を行い排泄自立に取り組んでいます。排泄表を活用し時間や有無の確認しながら誘導しています。車椅子生活の方も立位可能であればオムツにしないように努めています。	重度の介護の方でも、トイレ誘導を積極的に行っている。清潔の保持に注力しているため、家族に理解を得て、オムツやパットを頻繁に交換している。また、利用者毎の排泄機能を把握する事で、紙パンツから布パンツに、また、紙パンツからリハビリパンツに改善の事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録をつけており病院と連携してコントロールをしていますお腹の体操、きな粉牛乳やオリゴ糖で工夫してなるべく薬に頼らないよう取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前にバイタルチェックを行い体調を考慮し時間や順番にとらわれないよう心掛けています。	週2～3回の提供。出来るだけ入浴したい時間に入ってもらう様に努力している。浴室までの経路に、いろいろな飾りつけをして、楽しみながら誘導している。時には、一緒に歌を歌いながら浴室まで促すことで喜んでもらっている。言葉かけや職員を変える等して導いている。ゆず湯の提供は毎年恒例。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムをつくりその中で居室で横になって休まれる時間を設けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が入居者様の薬を把握し服薬は手渡しして確実に服薬していただいています。症状変化があれば医師に相談して対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できることは手伝っていただき無理強いのしないことを心掛けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ対策のため外出は控えている状態です。	三蜜に配慮しながら、日常の外出は続けている。散歩やゴミ出し、ちょっと遠回りして帰ってくる事、敷地内の移動での職員とのあいさつなど、コロナ禍でも続けるよう努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理出来ない方に関しては預らせていただいています。外出の際はご本人様が使えるように支援しています。預り金は家族様に出納帳のコピーを毎月一回提出しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の使用を許可しています。外線電話の取次ぎもしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせてお花を生けたり壁画作成したりしています トイレの清潔保持室温の温度チェックをしています。	共用空間は広く、温度・光・湿度等が適切に管理されており無臭には驚かされた。空気の淀みも感じない。壁には利用者の作った季節の折り紙や塗り絵等が飾られて落ち着いた空間となっているので、職員の目指すゆったりとした空間が、まさにここに形付けられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時間以外は好きな場所で過ごしていただいています。共有スペースが居心地いいように努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の使用されていた家具を配置して本人が落ち着いて生活できるように工夫しています。	どの部屋もスッキリ整頓されていて、木調の床は落ち着きを醸しており無臭は言うまでもない。各室、ベッドと洗面台が設置され、椅子やテレビ、手作りカレンダー等が飾られ、その人らしい部屋となっている。コロナの影響で、清潔をモットーとして安全性を追求している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全第一の環境作りを検討し工夫しています。		